

【小型船舶操縦者の心得及び遵守事項】

問 1 陸上交通との違い

①陸上交通と比べた水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 水上には道路のような移動範囲を制限するものがないので、どんな水域でも自由に航行することができる。
- (2) 陸上交通は国によって右側通行や左側通行があるが、水上交通はすべての国で左側通行である。
- (3) すべての水域に速力の制限がないので、どこでも高速で自由に航行することができる。
- (4) 水上では風や潮流等の影響を受けるため、同じ位置にとどまることが陸上ほど簡単ではない。

.....答 (4)

②陸上交通と比べた水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 水上では風や潮流等の影響を受けるため、同じ位置にとどまることが陸上ほど簡単ではない。
- (2) 一般に、モーターボートにバックミラーやサイドミラーがないのは、水上での周囲の確認が陸上ほど重要ではないためである。
- (3) すべての水域に速力の制限がないので、まわりに他の船舶がいなければどこでも高速で航行することができる。
- (4) 陸上と同じようにガソリンスタンドがあちこちに設置されているので、水上で燃料が不足してもすぐに補給することができる。

.....答 (1)

③小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 釣り人がいる堤防に近づく、釣り糸をプロペラシャフト等に巻き込む場合がある。
- (2) 作業用の台船に近づく、台船固定用のアンカーロープをドライブ等に引っ掛ける場合がある。
- (3) プレジャーボートが航行する水域でも、定置網や養殖施設が設置されている場合がある。
- (4) 護岸工事やしゅんせつ作業をしている船が、漁網を引いている場合がある。

.....答 (4)

④小型船舶を航行させる場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 簡単なエンジンの故障であれば、自分で修理や応急処置ができるようにしておく。
- (2) ごく狭い範囲だけで天候が急変することがあるので、航行中に少しでも天候に不安を感じたら、迷わず予定を変更して帰港する。
- (3) 同乗者が多いと見張りの妨げになることがあるので、片方の舷にまとめて座らせておく。
- (4) 無線機や携帯電話を持っていないと、海上でトラブルが発生した場合、陸上との連絡が取れなくなることに注意する。

.....答 (3)

⑤小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) ウェイクボードを引いている水上オートバイの操縦者は、後ろに気を取られて前を見ていない場合がある。
- (2) モーターボートの引き波によって、水辺で潮干狩りをしている人が転倒する場合がある。
- (3) 競技中のヨットや水上オートバイは、すべての船に対して優先権があるので、見張りをしなくてもよいと決められている場合がある。
- (4) 手こぎボートは、モーターボートの引き波によって転覆しそうなほど大きく揺れる場合がある。

.....答 (3)

⑥小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) レジャーや仕事などの目的で、さまざまな人が同じ水域を利用している。
- (2) 原則として速力の制限はないが、まわりに迷惑がかからないような速力で航行する。
- (3) 気象状況が悪くなった場合は、安全な水域まで自力で避難しなければならない。
- (4) 船は不安定な水面に浮いているが、風や波などの影響は受けないので安全に航行できる。

.....答 (4)

⑦小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水上スキー等を引いているモーターボートの操縦者は、前方を見ていないことがある。
- (2) ダイバーには常に警戒船が付き添っているので、潜水中かどうかすぐに分かる。
- (3) モーターボートの引き波によって、水辺で潮干狩りをしている人が転倒することがある。
- (4) 釣りをしている人に近づく、釣り糸をプロペラシャフトに巻き込むことがある。

.....答 (2)

⑧小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) あらかじめ水域を調べて、浅瀬や暗礁^{あんしやう}などの位置を確かめておく。
- (2) エンジントラブルが起きても、簡単な修理は自分でできるようにしておく。
- (3) 水上で事故が起きて救助を求めても、救助者の到着には時間がかかることが多い。
- (4) 漁業やダイビングなどをしている水域は、標識によって見分けられるようになっている。

.....答 (4)

⑨小型船舶で航行する場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) さまざまな人が同じ水域を利用していることを、頭に入れておかなければならない。
- (2) 沿岸だけを航行する場合は、無線機や携帯電話を持つ必要はない。
- (3) 霧が濃くなって視界が悪くなったら、速力を上げて帰港するのがよい。
- (4) 自分さえ安全ならば、速力をよけて航行してもかまわない。

.....答 (1)

⑩小型船舶で航行する場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 水域にはさまざまな利用者がいて、その利用区域がはっきりと分かれている。
- (2) 事故を防止するため、他の水域利用者に危険を及ぼす行為をしてはならない。
- (3) 大型船が定期的に航行する航路には、近づいただけで罰則を受ける。
- (4) 出航するときには、必要がなければ無線機や携帯電話を持っていかないほうがよい。

.....答 (2)

⑪小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水上では、陸上よりも気象の変化による影響を受けやすいことに注意する。
- (2) 航行に支障のある障害物は簡単に見つけられるので、航行中は操船に集中する。
- (3) 無線機や携帯電話を持っていないと、緊急時に陸上と連絡が取れなくなるので注意する。
- (4) あらゆる方向から船が接近してくることがあるので、常に適切な見張りをする。

.....答 (2)

⑫小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水上スキーなどを引いているモーターボートの操縦者は、前方を見ていないことがある。
- (2) ダイバーには常に警戒船が付き添っているので、潜水中かどうかすぐに分かる。
- (3) モーターボートの引き波によって、水辺^{しおひが}で潮干狩りをしている人が転倒することがある。
- (4) 釣りをしている人に近づくと、釣り糸をプロペラに巻き込むことがある。

.....答 (2)

⑬陸上交通と比べた場合の水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) どのような水域でも自由に航行することができる。
- (2) 水上交通は原則として左側通行である。
- (3) 水上では、どこでも高速で航行することができる。
- (4) 水上では、風などの外力の影響を受けやすい。

.....答 (4)

⑭小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水域にはさまざまな利用者がいるが、その利用区分ははっきりと決められていないことが多い。
- (2) 操縦性能が低い船舶は、自らすすんで、操縦性能が高い船舶を避けなければならない。
- (3) 事故を防止するため、他の水域利用者に迷惑をかける行為をしてはならない。
- (4) 陸から孤立しないよう、出航するときは無線機や携帯電話を持っていくほうがよい。

.....答 (2)

⑮陸上交通と比べた水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 水上には駐車禁止区域のような制限がないので、どこにでも自由に係留することができる。
- (2) 一般に、モーターボートにバックミラーやサイドミラーがないのは、水上での周囲の確認が陸上ほど重要ではないからである。
- (3) 水上では風や潮流等の影響を受けるため、同じ位置にとどまることが陸上ほど簡単ではない。
- (4) すべての水域に速力の制限がないので、まわりに他の船舶がいなければどこでも高速で航行することができる。

.....答 (3)

⑯陸上交通と比べた場合の水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 水上では、外力の影響により同じ位置にとどまることが陸上ほど簡単ではない。
- (2) 水上は見通しがよいので、周囲の安全確認が陸上ほど重要ではない。
- (3) まわりに他の船舶がいなければ、どこでも高速で航行することができる。
- (4) 陸上と同じようにガソリンスタンドがあちらこちらに設置されている。

.....答 (1)

⑰小型船舶で航行する場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) モーターボートの引き波によって手こぎボートが転覆するようなことはない。
- (2) 釣りをしている人に近づいても、釣り糸をプロペラに巻き込むようなことはない。
- (3) 水上スキーなどの遊具を引いている操縦者は、前方の見張りが不十分なことがある。
- (4) 大型船が定期的に航行する航路には、近づいただけで罰則を受けることがある。

.....答 (3)

⑱小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水面下の障害物は、見張りをしていれば必ず見つけることができる。
- (2) 水上で事故が起きたときは、自力で適切な処置をとらなければならない。
- (3) 事故が起きて、陸上では誰もそのことを知らない場合がある。
- (4) 救助を求めても、到着までかなりの時間がかかることが多い。

.....答 (1)

⑲小型船舶で航行する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 旅客船や工事作業船が航行する水域でも、漁船が操業をしていることがある。
- (2) 目標物が少ない水域では、自船の位置が分からなくなってしまうことがある。
- (3) 波が高い場合は、水面上に浮いている漁具や障害物が見えにくいことがある。
- (4) 一部の水域では、季節によって右側通航と左側通航が入れ替わることがある。

.....答 (4)

⑳陸上交通と比べた場合の水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 速力の制限がないので、どこでも高速で航行することができる。
- (2) 水上交通は原則として右側通行である。
- (3) 水上には移動を制限するものがないので、自由に航行することができる。
- (4) 海上では、燃料が不足してもすぐに補給することができる。

.....答 (2)

㉑小型船舶で航行する場合の注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) モーターボートやヨットが航行する水域では、漁業は行われていない。
- (2) 事故が発生した場合は、海上保安庁がすぐに救助してくれるので、自分で対応する必要はない。
- (3) 携帯電話は、通話範囲内であっても、水域によっては通話できないことがある。
- (4) 水面下の障害物や暗礁^{あんしょう}は、見張りをしていれば必ず見つけることができる。

.....答 (3)

②陸上交通と比べた場合の水上交通の特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 水上では、どこにでも自由に係留することができる。
- (2) 水上は見通しがよいので、周囲の安全確認が陸上ほど重要ではない。
- (3) 水上では、外力の影響により同じ位置にとどまることが陸上ほど簡単ではない。
- (4) まわりに他の船舶がいなければ、どこでも高速で航行することができる。

.....答 (3)

問 2 水域利用者の特性と注意事項

①小型船舶の船長が知っておいたほうがよい大型船についての知識として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 大型船の船首前方を航行する場合、自船から大型船のブリッジが見えないときは、相手船の死角に入っていると考えた方がよい。
- (2) 高性能の航海計器を積んでいるので、衝突の危険性は自船より早く察知していると考えた方がよい。
- (3) 自船が他の船舶などの陰に隠れてしまった場合は、大型船のレーダー映像からは消えてしまっていると考えた方がよい。
- (4) 風が強くて高い波が立っている中では、波の間に入った自船の存在に気付いていないと考えた方がよい。

.....答 (2)

②同じ水域を走行中の水上オートバイに対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 速力を落とさずに、急に変針することがある。
- (2) 突然、同乗者が振り落とされることがある。
- (3) 低速で走っていても、急に転覆することがある。
- (4) 何の前ぶれもなく、高速で後進することがある。

.....答 (4)

③航行中のヨットの特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 帆走中は、風を受ける舷^{げん}を変えながら進んでいく場合がある。
- (2) 大きな帆が死角となって、まわりの状況を確認できない場合がある。
- (3) 帆とエンジンの両方を使用して航行する場合がある。
- (4) 風を帆に受けながら進むので、風下側へのみ航行できる。

.....答 (4)

④モーターボートや水上オートバイで航行する場合、他の水域利用者に対して注意しなければならない事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 遊泳者に危険を及ぼすおそれがあるので、海水浴場には近づかないようにする。
- (2) 小型ヨットの進路は風に左右されて一定しないので、近づかないようにする。
- (3) ボードセーリングは見失いやすいので、できるだけ並んで航行するようにする。
- (4) 手こぎボートは引き波の影響を受けやすいので、できるだけ離れて航行する。

.....答 (3)

⑤操業中の漁船に対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 操業中は漁に集中していて、見張りを十分にしていない場合がある。
- (2) 自船の進路上にいる場合は、早めにホーンなどを鳴らして避航を求める。
- (3) 操業の形態は、漂泊^{ひょうはく}をしていたり錨泊^{いぼく}をしていたりさまざまである。
- (4) やむを得ず近づく場合は、引き波を立てないように航行する。

.....答 (2)

⑥大型船の一般的な特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) ブリッジが高い所にあるので、死角がほとんどない。
- (2) 惰力^{どりよく}が大きく、エンジンを止めてから数千メートルも前進する場合がある。
- (3) 高性能な航海計器を積んでいるので、周囲の小型船舶の動きがよく分かる。
- (4) 操縦性能がよいので、他の船舶を簡単に避けることができる。

.....答 (2)

⑦次の文(A)～(C)は、ある水域利用者の特性について述べたものである。すべての要素を満たす水域利用者として最も適切なものは、下のうちどれか。

- (A) 操縦者の技量で操縦性能の引き出し方が大きく変わる。
 - (B) 変針するときは、体重移動の併用が有効である。
 - (C) 構造上、かなり浅い水域でも航行することができる。
- (1) 工事作業船 (2) 漁船 (3) 水上オートバイ (4) 大型ヨット

.....答 (3)

⑧漁ろう中の船舶に対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 進行方向が一定でない場合があるので、出会ったときは見張りをより慎重に行う。
- (2) 漁ろう中の船舶を避けるときは、相手船との距離を大きくとって航行する。
- (3) 漁業の種類によっては、複数の船舶が一組になって操業する場合がある。
- (4) 網を揚げている間はほとんど動かないので、すぐ近くを通過することができる。

.....答 (4)

⑨水上オートバイの特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 船底に舵やプロペラがないので、比較的浅い水域を走行できる。
- (2) 加速性能がよく、高速で走行することができる。
- (3) 運動性能がよく、急旋回することができる。
- (4) 推進力がなくても、^{たりのよく}進行方向を変えることができる。

.....答 (4)

⑩大型船の一般的な特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 最新の航海計器を積んでいるので、他の船舶との衝突を簡単に避けることができる。
- (2) 狭い水道などを航行するときは、他の船舶の進路を避けられないことがある。
- (3) 緊急にエンジンを停止しても、すぐには停船することができない。
- (4) すぐ近くを横に並んで航行する小型船舶を、船側付近に吸い寄せることがある。

.....答 (1)

⑪大型船の一般的な特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 舵効きが悪いため、舵を取ってから実際に針路が変わるまでに時間がかかる。
- (2) 大きな出力のエンジンを積んでいるので、緊急時はすぐに停船できる。
- (3) 最新の航海計器を積んでいるので、他の船舶との衝突を簡単に避けることができる。
- (4) ブリッジからは周りをよく見渡せるので、近くにいる小型船舶の動きがよく分かる。

.....答 (1)

⑫航行中の大型船の特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 小型船舶に比べて舵効きが悪く、また、すぐに停船することができないなど操縦性能が低い。
- (2) 船側に近づく船舶に対して反発作用が働いたため、横に並んで航行する小型船舶とは、一定の間隔を保つことができる。
- (3) 喫水が深いため水深の浅い水域を航行できないなど、小型船舶と比べて航行できる水域が制限される。
- (4) 船首前方の死角が大きく、船首部のすぐ近くを航行する小型船舶はほとんど視認できない。

.....答 (2)

⑬航行中のエンジン付ヨットの特性について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) エンジンのみで航行する場合も、帆のみで航行する場合も操縦性能は変わらない。
- (2) 帆走中は、帆と船体の間から周囲を見渡すことができるため、帆が死角を作ることはない。
- (3) 帆走中の操船は風に左右されるため、自由自在に航行することが難しい。
- (4) エンジンを使わず、帆走だけで風上の目標に到達することはできない。

.....答 (3)

⑭小型船舶の船長が知っておくべき大型船の一般的な特性として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 前方の死角が大きく、船首方向の小型船舶を確認しにくい場合がある。
- (2) 緊急に停止することが難しく、数千メートルも前進する場合がある。
- (3) 高性能な航海計器を積んでいるので、周囲の小型船舶の動きがよく分かる。
- (4) 狭い水道等では、他船を避けることができない場合がある。

.....答 (3)

⑮大型船の一般的な特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 船首前方の死角が大きいものがある。
- (2) 惰力が大きいので、急には止まらない。
- (3) 簡単に変針できないものがある。
- (4) 速度が遅いので、引き波は小さい。

.....答 (4)

⑯小型船舶の船長が知っておくべき大型船の一般的な特性として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 最新の航海機器を積んでいるので、他の船舶との衝突を簡単に避けることができる。
- (2) 狭い水道等を航行するときは、他の船舶の進路を避けられないことがある。
- (3) 緊急にエンジンを停止しても、すぐには行きあしを止めることができない。
- (4) すぐ近くを横に並んで航行すると、小型船舶が船側付近に吸い寄せられることがある。

.....答 (1)

⑰小型船舶の船長が、漁船について知っておかなければならない事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 1隻で操業している場合も、集団で操業している場合も、漁具は必ず船尾から引いている。
- (2) 操縦性能がよいので、漁網を引いている場合でも他の船舶を簡単に避けることができる。
- (3) 操業中は漁に集中しているため、見張りを十分にしていない場合がある。
- (4) 漁具が出ているかどうかは、できるだけ近づいてしばらく並んで航行しないと分からない。

.....答 (3)

⑱水上オートバイの特性について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 船底に舵やプロペラが付いていないので、比較的浅い場所でも走行できる。
- (2) 小さくて軽い艇体に高出力のエンジンを積んでいるので、高速で走行できる。
- (3) 船尾から勢いよく噴射する水流の向きを変えることで進行方向を変えている。
- (4) 速力を落としたり停船したりする場合には、主に艇体が受ける風の抵抗を利用する。

.....答 (4)

⑲次の文(A)～(C)は、ある水域利用者の特性について述べたものである。すべての要素を満たす水域利用者として最も適切なものは、下のうちどれか。

- (A) 操縦者の技量で操縦性能の引き出し方が大きく変わる。
 - (B) 変針するときは、体重移動の併用が有効である。
 - (C) 構造上、かなり浅い水域でも航行することができる。
- (1) 工事作業船 (2) 漁船 (3) 水上オートバイ (4) 大型ヨット

.....答 (3)

⑳小型船舶の船長が、漁船について知っておかなければならない事項として適切なものは、次のうちどれか。

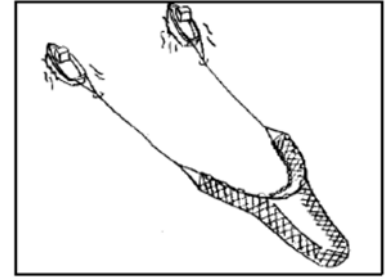
- (1) 操業の形態は、漂泊していたり錨泊をしていたりとさまざまである。
- (2) 1隻で操業している場合も、集団で操業している場合も漁具は必ず船尾から引いている。
- (3) 網を揚げている間はほとんど動かないので、すぐ近くを通過することができる。
- (4) 自船の進路上にいる場合は、早めにホーンなどを鳴らして避航を求める。

.....答 (1)

問 3 漁具などに対する注意

①下図に示す「底引き網漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

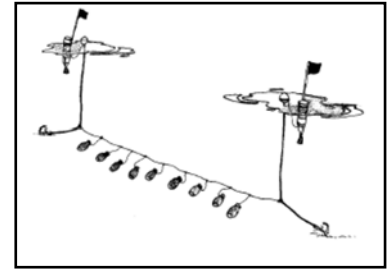
- (1) 右図のように2隻が1組になって操業している場合は、両船の間に入らないように注意する。
- (2) 網は海底に広げられているので、漁船の後方であればすぐ近くを航行することができる。
- (3) 操業中、針路を急に変更する場合があるので、近くを航行する場合は目を離さないようにする。
- (4) 操業中であることを示す形象物をマスト等に掲げている場合がある。



.....答 (2)

②下図に示す「たこつぼ漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

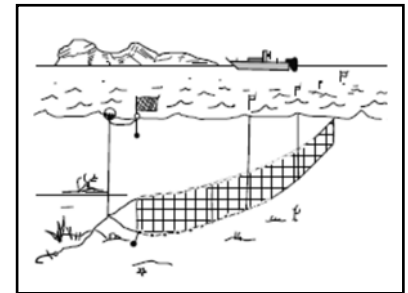
- (1) 水面に浮かんでいるブイはたざおや旗竿を見ただけでは、底刺し網か、たこつぼなのかを判断することは難しい。
- (2) 何組も設置されている場合が多いので、ブイや旗竿を見つけた場合には、十分に離れて航行する。
- (3) たこつぼは、長期間引き上げられることはなく、設置場所はヨットینگチャートなどに記されている。
- (4) 水面上に浮かんだ目印には、ブイの代わりに発泡スチロールかたまりの塊やペットボトルが使用される場合がある。



.....答 (3)

③下図に示す「底刺し網漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

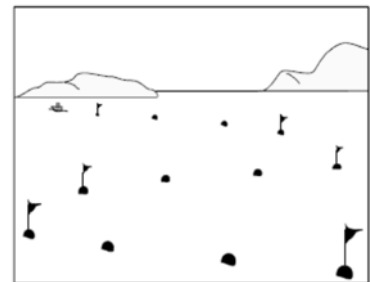
- (1) 漁具が設置されている付近には、必ず監視船が停泊している。
- (2) 目印のブイはたざおや旗竿を見ただけでは、仕掛けられた漁具が刺し網かどうかはわかりにくい。
- (3) 目印には、ブイの代わりにペットボトル等が使われていることがある。
- (4) 何組も設置されている場合があるので、ブイを見つけたらまわりもよく観察する。



.....答 (1)

④下図は、刺し網が設置されている水域の、水面上の様子を示した略図である。このような旗竿はたざおやブイに対する注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) ブイとブイの間にはロープや網がないので、低速であれば通過することができる。
- (2) ノリやカキの養殖施設と同じく、年間を通じて同じ位置に設置されている。
- (3) 広範囲に点在している場合もあるので、まわりをよく確認しながら大きく遠回りする。
- (4) 旗竿やブイの材質と大きさは統一されていて、どの水域でも同じものが使用されている。



.....答 (3)

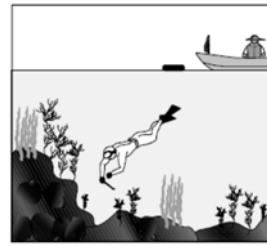
⑤「引き縄釣り漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 竿さおなどを利用して、一度に何本もの引き縄(釣り糸)を引く場合がある。
- (2) 引き縄や竿に意識を集中しているため、操業中は見張りをあまりしていないことがある。
- (3) 引き縄は他船から見えにくいので、引き縄釣り漁業専用の形象物を掲げている。
- (4) 引き縄の長さは数十メートルにもなるため、漁船の後方を通る場合は十分離れるようにする。

.....答 (3)

⑥ 下図に示す「潜水漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 操業中の船には、潜水中であることを示す信号旗が必ず掲げられている。
- (2) 一人で操業することが多いので、操業中は船上に誰もいないことがある。
- (3) 潜水者が浮き上がる間隔はいつも同じとは限らず、急に浮上してくることがある。
- (4) 潜水者は必ず海中にいるとは限らず、付近の海面に浮いていることもある。

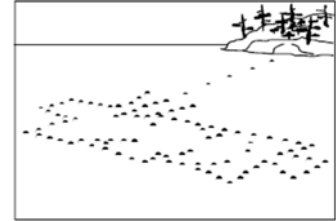


..... 答 (1)

⑦ 下図は、定置網が設置されている水域の、水面上の様子を示した略図である。

このような漁具に対する注意事項について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

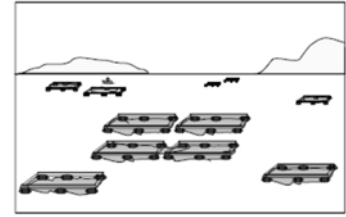
- (1) 陸岸に向かってのびる垣網のブイとブイの間は、高速で航行することができる。
- (2) 設置されている場所は、地元の漁業協同組合やマリーナなどに問い合わせればわかる。
- (3) 内部に立ち入って釣りをする場合は、網やアンカーロープに注意する。
- (4) ブイに係留する場合は、複数のブイにロープをかけるようにする。



..... 答 (2)

⑧ 下図のような養殖施設について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

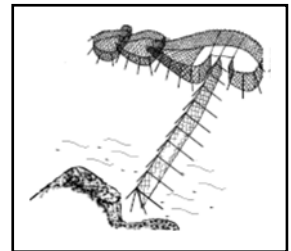
- (1) いかだは1つずつ浮いているので、どのいかだといかだの間でも自由に航行することができる。
- (2) 密集して設置されている場合が多いので、いかだのある水域を大きく避けて航行する。
- (3) いかだは海底に固定されていないので、設置場所は潮流の変化に応じて毎日移動する。
- (4) 所有者名が表示されていないいかだには、自由に係留することができる。



..... 答 (2)

⑨ 右図に示す「定置網漁業」に使用する網について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 魚群が回遊する水域に、比較的長い期間にわたって設置される。
- (2) 目印のブイを避ければ、網の上を航行することができる。
- (3) 本体と陸岸の間に設置された網により、魚を誘い込む。
- (4) 大規模なものから小規模なものまで、大きさはさまざまである。



..... 答 (2)

⑩ 右図に示す「えり漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

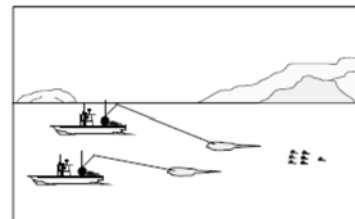
- (1) えりの内部では魚が養殖されている。
- (2) 長い期間にわたって同じ場所に設置されている。
- (3) 木や竹などを使って固定されている。
- (4) 干潟や湖などの水深の浅い所に位置されている。



..... 答 (1)

⑪ 右図のように2隻で網を引いている漁船に対する注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 漁船とブイの間を航行する場合は、引き綱ひきづなに注意する。
- (2) 2隻の間を航行する場合は、できるだけ低速にする。
- (3) 網やブイが見えにくい場合は、十分に近づいて確認する。
- (4) ブイの後方を航行する場合は、ブイから十分に離れる。



..... 答 (4)

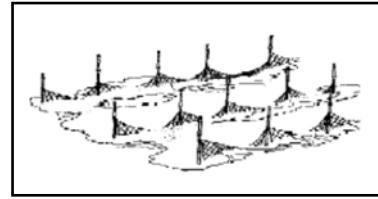
⑫ 長期間にわたって設置場所が固定されている漁具に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 刈養殖網 (2) たこつぼ (3) カキ養殖いかだ (4) 定置網

..... 答 (2)

⑬ 下図に示す「ノリ養殖漁業（支柱式）」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 漁場内は施設を固定するロープなどが多数張られている。
- (2) 網の周囲には、夜間に目印となる灯火が必ず設置されている。
- (3) 陸岸近くの干満差のある浅い場所に設置されている。
- (4) 設置場所や時期は、地元の漁業協同組合に問い合わせればわかる。



.....答 (2)

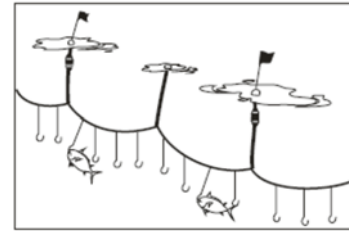
⑭ 漁具の設置状況について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 風や波があるときは、波に隠れて漁具が見えにくい場合がある。
- (2) 使用されている漁具の形や大きさは、全国的に統一されている。
- (3) ブイの代わりにペットボトル等を使用している場合がある。
- (4) 旗の付いた竹竿^{たけざお}を漁具の目印に利用している場合がある。

.....答 (2)

⑮ 右図に示す「はえ縄漁業」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 漁具の長さが数キロメートルに達するものもある。
- (2) 遠洋の海域で大型魚だけを対象に行われる漁法である。
- (3) 漁具は、日によって違う場所に設置されている。
- (4) 幹繩の両端には目印となるブイなどが設置されている。



.....答 (2)

⑯ 航行中、前方に定置網を発見した場合に最も注意しなければならない事項は、次のうちどれか。

- (1) ブイがどの方向に浮かんでいるか。
- (2) どんな魚を捕っているか。
- (3) 定置網の所有者は誰か。
- (4) いつ設置されたものか。

.....答 (1)

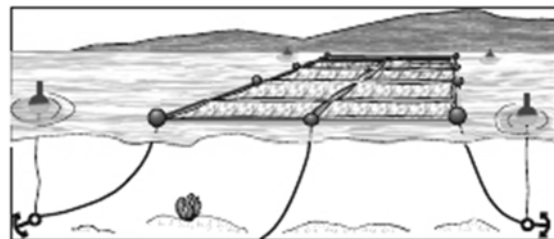
⑰ 漁具の設置状況について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 波が高いときは、波間に隠れて漁具が見えにくい場合がある。
- (2) 使われている漁具の形や大きさは、全国的に統一されている。
- (3) ブイの代わりにペットボトルなどを使用している場合がある。
- (4) 旗の付いた竹竿を漁具の目印に利用している場合がある。

.....答 (2)

⑱ 下図に示す「ノリ養殖漁業（浮き流し式）」について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 魚を捕る施設ではないので、船をブイに係留して釣りをしてもかまわない。
- (2) 広範囲にわたる大規模な施設では、船が航行するための水路を設定していることがある。
- (3) 支柱式のノリ養殖施設に比べ、水深の深い場所に設置されていることが多い。
- (4) 設置場所や時期は、地元の漁業協同組合に問い合わせれば分かる。



.....答 (1)

⑲ 漁業権について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。

- (1) 漁具が設置されていない水面であっても、漁業権が設定されている場合がある。
- (2) 漁業権は、湖や川などの内水面には設定されておらず、海面のみに設定されている。
- (3) 漁業権の対象となっている水産動植物を採捕すると、罰則の対象となる場合がある。
- (4) 釣りをする水域に漁業権が設定されていないか、事前に調べておく必要がある。

.....答 (2)

問 4 事故の発生状況

①プレジャーボートの衝突事故の発生原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 航法不遵守 (2) 船体点検不十分 (3) 操船不適切 (4) 見張り不十分

..... 答 (2)

②プレジャーボートの海難種類と、その主要な原因の組合せとして正しいものは、次のうちどれか。

- (1) 運航不能(機関故障) 操船不適切 (2) 衝突 気象海象不注意
(3) 転覆 船位不確認 (4) 乗揚げ 水域調査不十分

..... 答 (4)

③水上オートバイの衝突事故の主な発生原因は、次のうちどれか。

- (1) 船位不確認 (2) 操船不適切 (3) 気象海象不注意 (4) 発航前点検不十分

..... 答 (2)

④小型船舶の海難種類とその主要な原因について示した次の組合せのうち、適切でないものはどれか。

- (1) 乗揚げ 航行予定水域の調査が不十分であった。
(2) 運航不能(機関故障) エンジンや附属機器の点検や整備が不十分であった。
(3) 運航不能(推進器障害) 人員や貨物を必要以上に積み込みすぎた。
(4) 転覆 航行予定水域の調査が不十分であった。

..... 答 (3)

⑤プレジャーボートの乗揚げ事故の発生原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 水域調査不十分 (2) 船体点検不十分 (3) 船位不確認 (4) 見張り不十分

..... 答 (2)

⑥プレジャーボートの海難事故の発生傾向について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 海難事故の多くが、港内を含む海岸から3海里以内の水域で発生している。
(2) 事故原因のほとんどが、見張り不十分や機関取扱不良などの人為的ミスである。
(3) 乗船歴の短い船長が起こす事故がほとんどで、熟練者が起こす事故はまったくない。
(4) 海難にともなう転落事故では、ライフジャケットを着用していない者の死亡率が高い。

..... 答 (3)

⑦プレジャーボートの乗揚げ事故の主な発生原因は、次のうちどれか。

- (1) 操船不適切 (2) 機関取扱不良 (3) 水域調査不十分 (4) 船体点検不十分

..... 答 (3)

⑧プレジャーボートの海難事故は、どのような要因によるものが最も多いか。次のうちから選べ。

- (1) 見張り不十分や機関の取扱不良 (2) 船体の材質や構造の不良
(3) 気象や海象の急変 (4) 船体の手入れ不十分

..... 答 (1)

⑨プレジャーボートの海難事故の発生傾向について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 海難事故の8割以上が、陸岸から10海里以上離れた水域で発生している。
(2) 事故原因のほとんどが、見張り不十分や機関取扱不良などの人為的ミスである。
(3) 初心者の船長が起こす事故がほとんどで、熟練者が起こす事故はまったくない。
(4) モーターボートと水上オートバイの海難事故は、最近は大幅に減ってきている。

..... 答 (2)

⑩船舶の海難事故において、港内を含む陸岸から3海里以内の水域で発生したものの割合はどのくらいか。次のうちから選べ。

- (1) 約95% (2) 約80% (3) 約30% (4) 約10%

..... 答 (2)

⑪プレジャーボートの海難種類と、その主要な原因の組合せとして誤っているものは、次のうちどれか。

- (1) 運航不能(機関故障) 機関取扱不良 (2) 衝突 見張り不十分
(3) 火災 水域調査不十分 (4) 乗揚げ 船位不確認

..... 答 (3)

⑫プレジャーボートの衝突事故の発生原因として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 航法不遵守 (2) 船体点検不十分 (3) 操船不適切 (4) 見張り不十分

.....答 (2)

⑬小型船舶の海難種類とその主な原因について示した次の組合せのうち、正しいものはどれか。

- (1) 運航不能(機関故障) 気象海象不注意
(2) 衝突 見張り不十分
(3) 転覆 船位不確認
(4) 乗揚げ 操船不適切

.....答 (2)

⑭船舶の海難事故の発生傾向について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 事故原因は、人為的要因よりも不可抗力によるもののほうが多い。
(2) 事故水域は、海岸から3海里以遠よりも3海里以内のほうが多い。
(3) 事故の種類は、衝突や機関故障よりも転覆や乗揚げのほうが多い。
(4) 船舶種類別の事故件数は、小型船舶よりも大型船舶のほうが多い。

.....答 (2)

⑮小型船舶の海難事故のうち、「運航不能」に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 機関故障 (2) 燃料欠乏 (3) 居眠り運航 (4) バッテリー過放電

.....答 (3)

⑯プレジャーボートの海難事故の多くは「人為的要因」により発生しているが、その要因に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 材質構造不良 (2) 機関取扱不良 (3) 見張り不十分 (4) 水路調査不十分

.....答 (1)

問5 船長の役割と責任

①小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) いつでも同乗者と船の安全を守らなくてはならない。
(2) 船の最高責任者としての自覚を持って行動しなければならない。
(3) エンジンの出航前点検は、整備士の資格を持った者に行わせなければならない。
(4) 有資格者が何人も乗船する場合は、誰が船長なのかを出航前に決めておかなければならない。

.....答 (3)

②小型船舶の船長が取った行動として法令に違反しないものは、次のうちどれか。

- (1) 船体識別番号を塗りつぶした。
(2) 通知を受けた船舶番号を直ちに船体に表示した。
(3) 登録を受けていない小型船舶を航行させた。
(4) 小型船舶を譲り渡すとき譲渡証明書を交付しなかった。

.....答 (2)

③小型船舶の船長の責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 衝突や乗揚げ事故を起こすと、刑事責任を問われることがある。
(2) 事故にともなって死傷者が発生したときは、刑事責任を問われることがある。
(3) 事故を起こした結果、民事責任を問われることがある。
(4) 家族以外の同乗者が起こした事故であれば、民事責任を問われもることはない。

.....答 (4)

④同乗者に対する船長の責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 同乗者が危険を感じるような操縦をしない。
- (2) 同乗者からの希望があれば、ライフジャケットを着用させる。
- (3) 同乗者には、危険な行為を行わないように注意しておく。
- (4) 同乗者には、船長の指示に従うように言い聞かせておく。

.....答 (2)

⑤小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 出航する前には、安全航行に必要な準備を、順を追って確実に行う。
- (2) 有資格者が何人も乗船する場合は、出航後に役割分担を決める。
- (3) 船の最高責任者なので、同乗者の行為に対しても責任を負う。
- (4) 航行中は、的確で素早い判断により、リーダーシップを発揮する。

.....答 (2)

⑥小型船舶の船長が行った次の行為のうち、船舶安全法に規定された罰則の対象となるものはどれか。

- (1) 船舶検査証書を船内に備えて航行した。
- (2) 船舶検査手帳を自宅に保管して航行した。
- (3) 法定備品を船内に備え付けて航行した。
- (4) 船舶検査済票を船体にはり付けて航行した。

.....答 (2)

⑦小型船舶の船長が、自身の所有する船舶を航行させるときに心掛ける事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 船舶検査手帳を船内に備えたまま、船舶を航行させてはならない。
- (2) 船舶検査証書の有効期間が満了した状態で、船舶を航行させてはならない。
- (3) エンジンを乗せ換えたときは、臨時検査を受けて船舶を航行させなければならない。
- (4) 法定備品をすべて備えた状態で、船舶を航行させなければならない。

.....答 (1)

⑧小型船舶の船長の責任について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選べ。(船舶安全法)

- (A) 指定された航行区域を超えて船舶を航行させても、1海里までなら罰則は適用されない。
- (B) 最大搭載人員を超える人員を乗せて航行させても、1人までなら罰則は適用されない。

- (1) (A)だけ正しい
- (2) (B)だけ正しい
- (3) ともに正しい
- (4) ともに誤っている

.....答 (4)

⑨小型船舶の船長又は所有者が、小型船舶操縦者法に規定された罰則の適用を受けないのは、次のうちどれか。

- (1) 小型船舶操縦者の遵守事項に違反し、累積点数が基準に達した場合
- (2) 小型船舶操縦免許の航行区域を超えて船舶を操縦した場合
- (3) 小型船舶操縦士を船長以外の同乗者として乗船させた場合
- (4) 小型船舶操縦免許証を他人に譲^{ゆず}ったり貸したりした場合

.....答 (3)

⑩小型船舶の船長がとった行動として法令に違反するものは、次のうちどれか。

- (1) 船舶検査証書を自宅に保管して航行した。
- (2) エンジンを乗せ換え、臨時検査を受けて航行した。
- (3) 船舶検査手帳を船内に備えたまま航行した。
- (4) 船舶検査済票を両船側にはり付けて航行した。

.....答 (1)

⑪小型船舶の船長の責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 衝突や乗揚げ事故を起こすと、行政処分を受けることがある。
- (2) 事故にともなって死傷者が発生したときは、刑事責任を問われることがある。
- (3) 事故を起こした場合、損害賠償責任を問われることがある。
- (4) 同乗者が起こした事故の場合は、民事責任を問われることはない。

.....答 (4)

⑫小型船舶の船長がとった行動として法令に違反するものは、次のうちどれか。

- (1) 操縦免許証が失効したままで、水上オートバイを操縦した。
- (2) 操縦免許証を船内に保管して、小型船舶を操縦した。
- (3) 登録を受けている小型船舶を借りて航行させた。
- (4) 小型船舶を譲ったので、譲渡証明書を交付した。

.....答 (1)

⑬小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 小型船舶の船長には、大型船の船長と同じように社会的な責任と義務がある。
- (2) 船の最高責任者なので、リーダーシップを発揮して何ごとにも的確な判断をする。
- (3) 水域ごとのルールや遵守事項を守り、他の利用者と譲り合^{ゆず}って水域を利用する。
- (4) 同乗者が操縦中に起こした事故については、どんな場合でも船長に法的責任はない。

.....答 (4)

⑭小型船舶の船長が所有する船舶の登録について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 登録を受けていない船舶を航行させてはならない。
- (2) 登録を受けた場合は、自分で船体識別番号を船体に刻まなければならない。
- (3) 登録を受けた場合は、船舶番号を船体に表示しなければならない。
- (4) 登録を受けた船舶を他人に語る場合は、譲渡証明書を^{じょうと}作成して交付しなければならない。

.....答 (2)

⑮海難審判法に規定された懲戒に該当しないものは、次のうちどれか。

- (1) 戒告^{かいこく} (2) 罰金 (3) 免許の取消し (4) 業務の停止

.....答 (2)

⑯小型船舶の船長が行った次の行為のうち、船舶安全法に規定された罰則の対象とはならないものはどれか。

- (1) 指定された航行区域を超えて船舶を航行させた。
- (2) 船舶検査済票を両船側にはり付けた船舶を航行させた。
- (3) 中間検査を受けずに船舶を航行させた。
- (4) 最大搭載人員を超える旅客を乗せて船舶を航行させた。

.....答 (2)

⑰小型船舶操縦者法により、罰則の適用を受けることとなるのは、次のうちどれか。

- (1) 失効した操縦免許証で操縦したが、事故を起こさなかった。
- (2) 有効な操縦免許証を持っていたが、他の小型船舶操縦士を同乗させた。
- (3) 操縦免許証を身に付けず、小型船舶の船内に保管して操縦した。
- (4) 特殊小型船舶操縦士の操縦免許証で水上オートバイを操縦した。

.....答 (1)

⑱小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 出航してから港へ帰るまで、常に同乗者と船の安全を守らなくてはならない。
- (2) 船の最高責任者としての自覚を持って行動しなければならない。
- (3) エンジンの発航前点検は、整備士の資格を持った者に行わせなければならない。
- (4) 有資格者が何人も乗船する場合は、誰が船長なのかを出航前に決めておかなければならない。

.....答 (3)

⑲船長が所有する小型船舶を航行させるときの注意事項として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 船舶を航行させるときは、船舶検査手帳を自宅に保管しておかなければならない。
- (2) 船舶検査証書の有効期間が切れていても、船舶を航行させてかまわない。
- (3) 定期検査を受けていれば、エンジンを乗せ換えても検査を受ける必要はない。
- (4) 法定備品は、すべて船内に備えておかなければならない。

.....答 (4)

⑳小型船舶の船長の役割や責任について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 小型船舶の船長には、大型船の船長と同じように社会的な責任と義務がある。
- (2) 船の最高責任者なので、リーダーシップを発揮して何ごとにも的確な判断をする。
- (3) 水域ごとのルールや遵守事項を守り、他の利用者と譲り合って水域を利用する。
- (4) 同乗者が操縦中に起こした事故については、どんな場合でも船長に法的責任はない。

.....答 (4)

㉑小型船舶の船長が所有する船舶の登録について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 登録を受けていない船舶を航行させてはならない。
- (2) 登録を受けた場合は、自分で船体識別番号を船体に刻まなければならない。
- (3) 登録を受けた場合は、船舶番号を船体に表示しなければならない。
- (4) 登録を受けた船舶を他人に譲る場合は、譲渡証明書を作成して交付しなければならない。

.....答 (2)

㉒小型船舶の船長の責任について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。 (船舶安全法)

- (A) 指定された航行区域を超えて船舶を航行させても、1海里までなら罰則は適用されない。
- (B) 最大搭載人員を超える人員を乗せて航行させても、1人までなら罰則は適用されない。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (4)

問 6 シーマンシップと海のマナー

①遊泳者に対する注意事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 遊泳者に危険を与えるおそれがあるので、海水浴場に近づいてはならない。
- (B) 付近に遊泳者を発見した場合には、できるだけ速力を落とすか、停船しなければならない。

- (1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

②ダイビング中の船舶に対する注意事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) ダイビング船には必ず警戒船が付き、ダイバーの上を絶えず巡回している。
- (2) 船長自らが潜っていて、ダイビング船にはだれもない場合がある。
- (3) ダイビング中の標識として、「A旗」を掲げている場合がある。
- (4) ダイビング船から離れた場所にダイバーがいることもある。

.....答 (1)

③「私は、潜水夫を降ろしている。微速で十分避けよ。」を意味する国際信号旗の配色は、次のうちどれか。

ただし、白、青、赤は信号旗の色を表す。



.....答 (1)

④下図に示す国際信号旗の意味は、次のうちどれか。ただし、赤は信号旗の色を表す。

- (1) 人が、海中に落ちた。
- (2) 私は、危険物を荷役中または運送中である。
- (3) あなたは、すぐ停船されたい。
- (4) 私は、潜水夫を降ろしている、微速で十分避けよ。



.....答 (2)

⑤小型船舶の船長のマナーについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 暴走や見せびらかし走行といった、他人に迷惑がかかる行為をしないこと。

(B) 水域を不法に占拠したり、他人の係留施設に無断で係留したりしないこと。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑥小型船舶の船長のマナーについて述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

(1) 海水浴場や人家の近くでは、高速で航行しないようにする。

(2) 早朝や夜間には、なるべく出入港を行わないようにする。

(3) 定置網や養殖施設からは、離れて航行するようにする。

(4) 暖機運転は、空吹かしを繰り返しながら行うようにする。

.....答 (4)

⑦トレーラブルボートに関する注意について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 持ち込んだボートをスロープから水面に下ろす場合は、その施設の管理者に許可を受けてから利用する。

(B) 上げ下ろしをしようとする場所が車両乗り入れ禁止区域に指定されていないかどうか、あらかじめ確認しておく。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑧小型船舶の船長が注意しなければならない事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 操縦者の免許と乗船する船舶の両方に適合した航行区域内を航行すること。

(2) 交通量が多く大型船も通航している航路であっても、航路内を航行すること。

(3) 係留は、保管契約を結んだか許可を受けた場所に行き、不法係留や無断係留はしないこと。

(4) 早朝や夜間に出入港するときは、まわりの住民に迷惑をかけないように注意すること。

.....答 (2)

⑨ダイバーに対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) ダイバーにはいつでも警戒船が付いているので、その船を目標としてダイバーを避ける。

(2) ダイバーが潜水していることを示す標識が掲げられていない場合があるので注意する。

(3) 日頃からダイバーが潜水していることが多い水域は、できるだけ離れて航行する。

(4) ダイバーがいる可能性がある水域では、いつ出会ってもすぐ止まれるような速力で航行する。

.....答 (1)

⑩小型船舶の船長のマナーについて述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

(1) 見せびらかし走行は、他人に迷惑をかけることがないので行ってもよい。

(2) 操船に自信があれば、海水浴場に近づいて航行しても危険はない。

(3) 手こぎボートは引き波に強いので、すぐ近くを高速で航行してもよい。

(4) 操業中の漁船からはできるだけ離れ、引き波を立てないように航行する。

.....答 (4)

⑪小型船舶の船長のマナーについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 操業中の漁船からはできるだけ離れ、引き波を立てないように注意して航行する。

(B) 手こぎボートは引き波の影響を受けにくいので、すぐ近くを航行する場合でも特に速力を落とさなくてもよい。

(1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (1)

⑫釣りをしている船舶に対する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 早めに汽笛を鳴らして避けてもらうようにする。

(2) 引き波を立てないように気をつけて航行する。

(3) 釣りに熱中してまわりを見ていないことがある。

(4) エンジンを止めて、漂泊しながら釣りをしていることがある。

.....答 (1)

⑬小型船舶の船長のマナーについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) ダイバーが潜水している水域は高速で通過する。

(B) 手こぎボートがいる水域には近づかない。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (2)

⑭小型船舶の船長のマナーについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(A) 見せびらかし走行は、他人に迷惑をかけることがないので行ってよい。

(B) 所有者が分からない桟橋であれば、短時間なら自由に係留してもかまわない。

(1) (A)のみ正しい (2) (B)のみ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (4)

⑮小型船舶の船長のマナーについて述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

(1) 見せびらかすように航行することは、特に危険でなければ構わない。

(2) 作業船の近くを航行する場合は、なるべく高速で素早く通過する。

(3) ダイバーが潜っている水域からは、できるだけ離れて航行する。

(4) 通航船舶の多い航路では、できるだけ大型船に近づいて航行する。

.....答 (3)

⑯小型船舶の船長のマナーについて述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

(1) 工事区域の近くには、できるだけ近づかないように注意して航行する。

(2) ^{びようはく} 錨泊している船舶のすぐ近くを航行する場合は、高速で素早く通過する。

(3) 水中作業をしている船を見つけたら、確認のため十分に近づいて航行する。

(4) 出航するときは、なるべく早朝や夜間になるように時間を調整する。

.....答 (1)

⑰海上に設置された漁具に関する注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 航行予定水域での漁法や漁具に関する情報をあらかじめ調べておく。

(2) 漁具が設置されている水域には、できるだけ近寄らないようにする。

(3) 進路上に漁具を発見した場合、小さなブイ程度なら船首の波で押しよける。

(4) プロペラで漁具を傷付けたようなときは、必ず関係者に届け出る。

.....答 (3)

⑱下図に示す国際信号旗の意味は、次のうちどれか。ただし、白、青は信号旗の色を表す。

(1) あなたは、すぐ停船されたい。

(2) 私は、危険物を荷役中又は運送中である。

(3) 私は、潜水夫を降ろしている、微速で十分避けよ。

(4) 私は、水先人を乗せている。



.....答 (3)

⑲小型船舶の船長が注意しなければならない事項として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 船長の免許と乗船する小型船舶の両方に適合した航行区域内を航行すること。

(2) 大型船が通航している交通量の多い航路であっても、航路内を航行すること。

(3) 係留は、保管契約を結んだか許可を受けた場所に行い、不法係留や無断係留はしないこと。

(4) 早朝や夜間に出入港するときは、まわりの住民に迷惑をかけないように注意すること。

.....答 (2)

⑳不要になった船の処理方法を確認するときの問い合わせ先として適切でないものは、次のうちどれか。

(1) 消防署 (2) 海上保安庁 (3) 地方自治体 (4) マリーナ

.....答 (1)

問 7 安全な航海をするための船長の心得

①航行予定水域の状況を確認する方法として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 海図やプレジャーボート・小型船用港湾案内(Sガイド画像)で調べる。
- (2) 航行予定水域付近のマリーナや漁業協同組合に問い合わせる。
- (3) 航行予定水域を管轄する海上保安部に問い合わせる。
- (4) 使用する船舶の船舶検査証書や船舶検査手帳で調べる。

.....答 (4)

②小型船舶の船長が、出航前に確認しなければならない事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 係留ロープや船体の損傷の有無を確認する。
- (2) 暖機運転中のエンジンの状態を確認する。
- (3) 信号紅炎や消火器を試用してみる。
- (4) 当日の気象や海象の情報を入手する。

.....答 (3)

③小型船舶の船長が同乗者に対して注意すべき事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 飛び乗りや飛び降りさせないようにする。
- (2) ゴミは船外に捨てさせ、船内を汚さないようにする。
- (3) 乗船中は、低い姿勢をとらせるようにする。
- (4) 服装や靴についても細かい注意を払うようにする。

.....答 (2)

④気象庁予報部の気象情報を聞くことができる電話番号は、次のうちどれか。

- (1) 115 (2) 117 (3) 118 (4) 177

.....答 (4)

⑤小型船舶の船長の心得として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 養殖いかだや定置網などの漁業施設の付近は、低速で通過する。
- (2) 気象や海象の変化に注意し、不安を感じた場合はすぐに帰港する。
- (3) 他船の故障や事故を発見した場合は、できる限り救助に向かう。
- (4) 定員を超えて乗船させる場合は、人数分のライフジャケットを用意する。

.....答 (4)

⑥小型船舶の船長の心得として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 気象や海象の変化に不安を感じても、航海計画どおりに航行することを優先する。
- (2) 同乗者が船内で出したゴミは船外に捨てさせ、船内を汚さないようにする。
- (3) 養殖いかだや定置網などの漁業施設の付近では、引き波を立てないようにする。
- (4) 他船の故障や事故を発見しても、かかわらないようにする。

.....答 (3)

⑦航海計画を立てるときに考慮すべき事項について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 燃料消費量はいつも一定ではなく、海域の状況によって変わること。
- (2) あらかじめ、同乗者の航海中の役割分担を決めておく必要があること。
- (3) 複数の艇で航海する場合、速力や航続距離などの性能は各艇ごとに異なること。
- (4) 慣れ親しんでいる水域であれば、海図や港湾案内等による事前の調査は必要ないこと。

.....答 (4)

⑧安全な航行をするために船長がとった次の判断のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 天候が悪化しつつあったが、荒天準備よりも、とりあえず目的地へ直行することを優先した。
- (2) 日没を過ぎたので、窓に反射した明かりが見張り^{さまた}げ妨げないように、計器の照明を調整した。
- (3) 交通が混み合う水域にさしかかったので、見張りをしやすくするため、速力を落とした。
- (4) 会話をしたり、ラジオを聞いている最中でも、エンジンやまわりの音の状況変化に注意した。

.....答 (1)

⑨小型船舶の船長が、出航するときに家族やマリナーなどに知らせておかなければならない事項として最も重要なものは、次のうちどれか。

- (1) 燃料の搭載量 (2) 機関の出力 (3) 帰港予定時刻 (4) 免許の種類

.....答 (3)

⑩航海計画について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 同乗する初心者や子供に気を配った、無理のない計画を立てる。
(2) 海上経験の豊かな同乗者がいれば、計画を立てる必要はない。
(3) 計画の内容は、あらかじめ同乗者に知らせておく。
(4) 航行中に計画内容を変更する場合は、家族やマリナーに連絡をする。

.....答 (2)

⑪気象情報を確認する方法として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) テレビや新聞、ラジオなどを利用して当日の天気予報を調べる。
(2) インターネットの気象情報サイトを利用して確認する。
(3) その土地特有の気象現象や予測方法をマリナーなどで確認する。
(4) 117番に電話をして気象庁予報部の気象情報を聞く。

.....答 (4)

⑫通信手段として、海上で携帯電話を使用する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 予備のバッテリーを用意しておく。 (2) 通話可能範囲を確認しておく。
(3) 使わない時は、電源を切っておく。 (4) できるだけ防水対策をしておく。

.....答 (3)

⑬小型船舶の船長が同乗者に対して注意しておく事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 乗下船するときに、飛び乗ったり飛び降りたりさせないようにする。
(2) 航行中に生じたゴミは船外に捨てさせ、船内を汚させないようにする。
(3) 人と船の安全のため、航行中は低い姿勢をとらせるようにする。
(4) 落水事故を防止するため、身体を船外に乗り出させないようにする。

.....答 (2)

⑭小型船舶の船長が航海計画を立てる場合の心得として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) その船が出せる最高速度をもとにして計画を立てる。
(2) 暗礁あんしやうの多い水域から離れたコースを設定する。
(3) 天候が悪くなったときのための避難港を選んでおく。
(4) できるだけ夜間の航海をしないような計画を立てる。

.....答 (1)

⑮小型船舶の船長の心得として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 養殖いかだや定置網などの漁業施設の付近は、低速で通過する。
(2) 気象や海象の変化に注意し、不安を感じた場合はすぐに帰港する。
(3) 他船の故障や事故を発見した場合は、できるだけ救助に向かう。
(4) 定員を超えて乗船させる場合は、人数分のライフジャケットを用意する。

.....答 (4)

⑯小型船舶に乗船する場合の服装について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 出航するときに晴れていれば、雨具は準備しなくてもよい。
(2) 軽快で動きやすく、素肌の露出が少ない服装がよい。
(3) 靴やブーツは底が柔らかく、滑りにくいものがよい。
(4) 陸上よりも寒さを感じやすいので、1枚余分に準備しておくほうがよい。

.....答 (1)

⑰航行予定水域の情報や交通ルールを確認するときの問い合わせ先として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) その地域のマリーナやマリショップ (2) その地域の地方気象台
(3) 海上保安部や地方自治体 (4) その地域の漁業協同組合

..... 答 (2)

⑱小型船舶の船長の心得として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 法定備品は、航行中に使用するものだけを選んで積み込む。
(2) 発航前の点検は、短時間の航海であっても必ず行う。
(3) 余分にライフジャケットを積み込んでいても、定員を超えて乗船させない。
(4) あらかじめ天気予報を確認していても、観天望気を行う。

..... 答 (1)

⑲海上で携帯電話を使用する場合の注意事項として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 防水対策として防水パックに入れるか、防水機能があるものを使用する。
(2) 日本国内の場合、すべての携帯電話で海岸から20海里までの通話が保証されている。
(3) いつでも身に付けておき、緊急時には素早く使用できるようにしておく。
(4) 海上保安庁への直通番号(緊急通報用電話番号)を登録しておく。

..... 答 (2)

⑳小型船舶を操縦する場合の体調管理について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 前日には十分な睡眠時間をとるようにする。
(2) 当日、体調が悪い場合は出航しないようにする。
(3) 風邪をひいたときには薬を多めに飲んでから操縦する。
(4) 前日の飲酒の影響が残った状態で操縦しないようにする。

..... 答 (3)

問 8 事故が起きた時の対応

①小型船舶における事故発生時の対応について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) まず自分自身で、全力を挙げて応急処置をとる。
(2) 救助が必要な場合には遭難信号を行い、付近の船舶に救助を求める。
(3) 緊急通報は、海上では海上保安庁に行い、湖や川では警察に行く。
(4) 他船の事故を目撃したときには、現場に急行して、まず船体の安全確保に努める。

..... 答 (4)

②海上における事件や事故の緊急通報用電話番号は、次のうちどれか。

- (1) 115 (2) 117 (3) 118 (4) 177

..... 答 (3)

③船から落水した場合の対処として適切でないものは次のうちどれか。

- (1) 浮くものにつかまり、浮力を確保する。
(2) 発見されやすいように、落水した場所で救助を待つ。
(3) できるだけ泳がず、体力を温存する。
(4) あわてず、服を脱いで身軽になる。

..... 答 (4)

④遭難した場合の通報先について述べた次の文のうち、最も適切なものはどれか。

- (1) 海上では海上保安庁に通報し、湖や川では警察に通報する。
(2) 海上では警察に通報し、湖や川では海上保安庁に通報する。
(3) 遭難場所がどこであっても、必ず海上保安庁に通報する。
(4) 遭難場所がどこであっても、必ず警察に通報する。

..... 答 (1)

⑤他の船舶の事故を知った場合の処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 携帯電話で連絡を受けた場合は、船位を正確に聞いてから救助に向かう。
- (2) 信号紅炎等の遭難信号で事故を知った場合は、直ちに救助に向かう。
- (3) 事故を目撃した場合は、二次災害を防ぐため、必ず泳いで救助に向かう。
- (4) 海上で事故を発見した場合は、必要に応じて「1 1 8番」に通報する。

.....答 (3)

⑥遭難して救助を求める場合の措置について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 遭難信号など、あらゆる手段を使って救助を要請する。
- (2) 捜索救助は、海上でも湖川でも海上保安庁に要請する。
- (3) 無線機や携帯電話があれば、救助を求める手段として積極的に使用する。
- (4) 救助を求めるときには、特に自船の位置を正確に伝える。

.....答 (2)

⑦海上で事故が発生したときの処置について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 救助が必要な場合は、遭難信号を発し、付近の船舶に救助を求める。
- (2) 救助を求める場合は、自船の位置や事故の発生状況等の情報を正確に伝える。
- (3) 落水した場合は、衣服を脱いで身軽になり、岸に向かって全力で泳ぐ。
- (4) 他の船舶の事故を目撃した場合は、できる限り救助に向かう。

.....答 (3)

⑧航行中に事故が起きた場合の措置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 負傷者がいないかどうか、いればその程度はどうかを確認する。
- (2) 落ち着いて状況を確認し、必要があれば救助を求める。
- (3) 衝突した場合は、船体の安全確保を最優先に考える。
- (4) 落水した場合は、無理に泳がず浮力の確保に努める。

.....答 (3)

⑨小型船舶の船長が事故を起こした場合にとらなければならない処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) あわてず、冷静に状況を確認する。
- (2) 一番年上の者の指示に従って行動する。
- (3) 人命の救助を最優先する。
- (4) 必要に応じて救助を要請する。

.....答 (2)

⑩プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) プレジャーボートの保険はすべて任意保険であり、強制保険はない。
- (2) 船外機を使用して航行するボートは、保険に加入することができない。
- (3) 水上オートバイは、保険に加入することができない。
- (4) プレジャーボートの保険では、搭乗者に対する補償は受けられない。

.....答 (1)

⑪航行中に事故が起きた場合の処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 冷静になって事故の状況を確認する。
- (2) 救助要請が必要かどうかを判断する。
- (3) 負傷者がいないかどうかを確認する。
- (4) 船体の安全確保を最優先する。

.....答 (4)

⑫船舶が海上、あるいは湖や川で事故を起こした場合の最も適切な通報先は、次のうちどれか。

- (1) 海上では海上保安庁に通報し、湖や川では警察に通報する。
- (2) 海上では警察に通報し、湖や川では海上保安庁に通報する。
- (3) 海上では消防署に通報し、湖や川では海上保安庁に通報する。
- (4) 海上では消防署に通報し、湖や川では海難審判所に通報する。

.....答 (1)

⑬小型船舶における事故発生時の処置として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 損傷状況を確認して、自分の船だけで航行ができるかどうかを判断する。
- (2) 救助が必要な場合であっても、むやみに遭難信号を発信しないようにする。
- (3) 事故が発生した場所によって、海上保安庁と警察のどちらに通報するのかを判断する。
- (4) 他船の事故を目撃したときには、できるだけ救助や協力を行う。

.....答 (2)

⑭プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) プレジャーボートの保険では、搭乗者に対する補償は受けられない。
- (2) プレジャーボートの保険はすべて任意保険であり、強制保険はない。
- (3) 船外機を使用して航行するボートは、保険に加入することができない。
- (4) あまり使用しないプレジャーボートは、保険に加入する必要はない。

.....答 (2)

⑮プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 毎日使用するのでなければ加入する必要はない。
- (2) 強制加入制度がないので、すべて任意で加入する。
- (3) 水上オートバイは加入することができない。
- (4) 船体の損傷は補償の対象とはならない。

.....答 (2)

⑯プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 自船の運航形態に応じた保険を選ぶようにする。
- (2) 万一の場合に備えて、保険に加入しておく方がよい。
- (3) 水上オートバイであっても、保険に加入することができる。
- (4) 自動車の保険のような、強制保険制度がある。

.....答 (4)

⑰プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 自分の船の運航形態に合った保険を選ぶようにする。
- (2) 万一の場合に備えて、保険に加入しておく方がよい。
- (3) 水上オートバイであっても、保険に加入することができる。
- (4) プレジャーボートの保険では、搭乗者に対する補償は受けられない。

.....答 (4)

⑱プレジャーボートの保険について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 自動車の保険のような、強制保険制度になっている。
- (2) 船体の損傷だけが補償の対象となっている。
- (3) 水上オートバイは保険に加入することができない。
- (4) 自分の船の運航状態に合った保険を選ぶようにする。

.....答 (4)

問 9 小型船舶操縦者法に基づく遵守事項

①小型船舶の船長の遵守事項として定められた、自ら小型船舶を操縦しなければならないときに当てはまらないものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 水上オートバイに乗船するとき
- (2) エンジンのない5トン未満の帆船に乗船するとき
- (3) 港則法に基づく港の区域を航行するとき
- (4) 海上交通安全法に基づく航路を航行するとき

.....答 (2)

②小型船舶操縦者法の遵守事項違反に基づく行政処分の免除または軽減の措置を受けるために受講する講習を何というか。次のうちから選べ。

- (1) 違反者講習 (2) 失効再交付講習 (3) 再教育講習 (4) 小型旅客安全講習

.....答 (3)

③小型船舶の船長の遵守事項で禁止されている「危険な操縦の方法」に融当するものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 釣り船の近くを低速で航行した。
- (2) 障害物のない広い水域を高速で航行した。
- (3) ダイバーを発見したので微速で遠ざかった。
- (4) 付近にいた遊泳者の間を高速ですり抜けた。

.....答 (4)

④小型船舶の船長の遵守事項として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 飲酒や薬物の影響により正常に操縦できない場合は、操縦してはならない。
- (2) 水上オートバイに乗船する場合は、免許受有者以外の者が操縦してはならない。
- (3) 港則法に基づく港の区域を航行する場合は、免許受有者が操縦しなければならない。
- (4) 二人以上で水上オートバイに乗船して航行する場合は、操縦者だけがライフジャケットを着用しなければならない。

.....答 (4)

⑤小型船舶の船長の遵守事項に違反して行政処分を受けた場合、その処分の免除または軽減を受けるためには、どのようにすればよいか。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 再教育講習を受講する。(2) 罰金を支払う。
- (3) 略式裁判を受ける。(4) 社会奉仕活動に従事する。

.....答 (1)

⑥小型船舶の船長の遵守事項について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 飲酒や薬物の影響などにより正常な操縦ができない同乗者には、操縦させてはならない。
- (2) 水上オートバイを無資格者に操縦させる場合は、有資格者が指揮監督しなければならない。
- (3) 海上交通安全法に基づく航路を航行する場合は、有資格者が操縦しなければならない。
- (4) 水上オートバイに乗船して航行する場合は、ライフジャケットを着用しなければならない。

.....答 (2)

⑦小型船舶の船長の遵守事項に規定されていないものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 乗船前には、睡眠をよく取り、体調管理を十分に行うこと。
- (2) 発航前には、気象情報や水路情報等の情報収集を行うこと。
- (3) 発航前には、燃料の量や救命設備等の点検を行うこと。
- (4) 事故が起きたときは、人命の救助に必要な手段を尽くすこと。

.....答 (1)

⑧小型船舶の船長の遵守事項として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 飲酒により正常な操縦ができない者に、操縦をさせてはならない。
- (2) 同乗する12歳未満の小児には、ライフジャケットを着用させなければならない。
- (3) 港則法に基づく港の区域では、免許受有者以外の者が操縦してもよい。
- (4) 危険を生じするような速力で、遊泳者に近づいてはならない。

.....答 (3)

⑨小型船舶の船長の遵守事項に定められた「常時適切な見張りの確保」が十分になされていない状況は、次のうちどれか。

- (1) 夜間航行中、レーダーも使用して周囲の状況を監視した。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)
- (2) 霧が出てきたので、船内がぬれないように窓やドアを閉め切った。
- (3) より遠くの水域まで見渡せるように双眼鏡を使用した。
- (4) 自分だけでは不安なので、同乗者にも見張りをするよう指示した。

.....答 (2)

⑩小型船舶の船長の遵守事項として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 付近に遊泳者がいる場合には、高速で遠ざからなければならない。
- (2) 水上オートバイに乗船して航行する場合は、必ずライフジャケットを着用しなければならない。
- (3) 海上交通安全法に基づく航路を航行する場合は、有資格者が操縦しなければならない。
- (4) 飲酒などの影響により正常に操縦できないおそれのある状態の者に、操縦させてはならない。

.....答 (1)

⑪小型船舶の船長の遵守事項について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 同乗者が見張りをしていれば、船長は操船に専念して見張りをしなくてもよい。
- (2) 12歳未満の子供を同乗させる場合は、ライフジャケットを着用させなければならない。
- (3) 小型船舶のうち水上オートバイだけが、遊泳者の近くでジグザグ走行してはならない。
- (4) 港内を航行するときは、船長はもちろん同乗者も飲酒をしてはならない。

.....答 (2)

⑫小型船舶の船長の遵守事項として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 飲酒や薬物の影響により正常に操縦できないおそれのある場合は、操縦してはならない。
- (2) 水上オートバイに乗船する場合は、無資格者が操縦してはならない。
- (3) 港則法に基づく港の区域を航行する場合は、有資格者が操縦しなければならない。
- (4) 二人以上で水上オートバイに乗船して航行する場合は、操縦者だけがライフジャケットを着用しなければならない。

.....答 (4)

⑬小型船舶の船長の遵守事項に定められた「自己操縦」について述べた次の文の、(ア)及び(イ)の中に当てはまる適切な語句の組合せは、下のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

「小型船舶の船長は、(ア)に基づく港の区域や(イ)に基づく航路を航行するときは、自ら船を操縦しなければならない。」

- (1) (ア):港則法(イ):海上交通安全法 (2) (ア):船舶安全法(イ):海上衝突予防法
- (3) (ア):港則法(イ):海上衝突予防法 (4) (ア):船舶安全法(イ):海上交通安全法

.....答 (1)

⑭小型船舶の船長の遵守事項について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 見張りを行わなければならないのは、エンジンをかけて船が動いているときだけである。
- (2) 12歳未満の小児を同乗させる場合は、身体に合ったライフジャケットを着用させる義務がある。
- (3) 遊泳者のすぐそばでの高速航走や縫航ほうこうが禁じられているのは、水上オートバイだけである。
- (4) 酒酔い操縦が禁止されるのは、港内又は海上交通安全法の航路内を航行する場合だけである。

.....答 (2)

⑮小型船舶の船長の遵守事項では、その時の状況に適したすべての手段により常時適切な見張りを行うように規定されているが、次のうち、適切でない手段はどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 遠くまで見えるように双眼鏡を使った。 (2) 同乗者に行わず船長が一人で行った。
(3) 視界が悪くなったので耳をすました。 (4) 暗くなってきたのでレーダーを使用した。

.....答 (2)

⑯小型船舶の船長の遵守事項について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 酒に酔って正常な操縦ができない者に操縦させてはならない。
(2) 水上オートバイに乗船して航行する場合は、ライフジャケットを着用しなければならない。
(3) 港則法に基づく港の区域を航行するときは、免許受有者が操縦しなければならない。
(4) 自身が安全だと判断すれば、遊泳者のすぐそばで急回転してもかまわない。

.....答 (4)

⑰小型船舶の船長は、その時の状況に適したすべての手段により常時適切な見張りを行わなければならないが、次のうち、適切でない手段はどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 遠くまで見えるように双眼鏡を使った。 (2) 暗くなったので前方の見張りに集中した。
(3) 視界が悪くなったので耳をすました。 (4) 定期的にレーダーを使用して周囲を確認した。

.....答 (2)

⑱小型船舶の船長の遵守事項について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (A) 小型船舶操縦者が、遵守事項のうちの酒酔い操縦や危険操縦などの禁止された事項に違反し、違反行為の内容および回数が一定の基準に達した場合は、罰金処分が科せられる。
(B) 違反点数が基準に達し、処分を受けることになった者には再教育講習についての通知があり、これを受講することにより処分が軽減される。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (2)

⑲ライフジャケットの着用義務が適用されないのは、次のうちどれか。次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 航行中の水上オートバイの後部座席に同乗するとき
(2) 航行中の旅客船に乗船して、その船室内にいるとき
(3) 12歳未満の子供が航行中の小型船舶に乗船するとき
(4) 航行中の小型漁船に一人で乗船して漁ろうするとき

.....答 (2)

⑳小型船舶の船長の遵守事項に定められた「常時適切な見張りの確保」が十分になされていない状況は、次のうちどれか。

- (1) 夜間航行中、レーダーも使用して周囲の状況を監視した。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)
(2) 霧が出てきたので、船内がぬれないように窓やドアを閉め切った。
(3) より遠くの水域まで見渡せるように双眼鏡を使用した。
(4) 自分だけでは不安なので、同乗者にも見張りをしよう指示した。

.....答 (2)

㉑小型船舶の船長の遵守事項において、着用が義務付けられているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) サングラス (2) 手袋 (3) ライフジャケット (4) マリンシューズ

.....答 (3)

問 10 小型船舶の免許制度

①操縦免許証の取扱いについて述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 操縦免許証は自宅に置き、その写しを持って操縦する。
- (2) 操縦免許証の有効期間は6年である。
- (3) 操縦免許証の更新は、3年ごとに1回行う。
- (4) 操縦免許証は有効期間の満了日を過ぎると失効する。

.....答 (4)

②特殊小型船舶操縦士の免許は満何歳から取得できるか。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 15 歳 (2) 16 歳 (3) 18 歳 (4) 20 歳

.....答 (2)

③操縦免許証の有効期間を更新する際、身体適正基準に加えて満たさなければならないもう一つの要件に該当しないものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 講習機関が行う更新講習を修了していること。
- (2) 必要な乗船履歴を有していること。
- (3) 操縦免許証の有効期間が満了した後、6か月を経過していないこと。
- (4) 乗船履歴がある者と同等と認められる職務に一定期間従事していたこと。

.....答 (3)

④操縦免許証の有効期間の更新申請はいつから行うことができるか。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 有効期間が満了する日の1か月前 (2) 有効期間が満了する日の1年前
- (3) 有効期間が満了する日の3か月前 (4) 有効期間が満了する日の前後3か月

.....答 (2)

⑤操縦免許証の有効期間を更新するための要件として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 一定の身体適性基準を満たしていること。
- (2) 講習を更新要件にする場合は、更新講習を修了していること。
- (3) 有効期間満了後1年以内に、更新手続きが完了していること。
- (4) 乗船履歴を更新要件にする場合は、所定の乗船履歴があること。

.....答 (3)

⑥小型船舶操縦士の免許制度について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 操縦免許証を他入に貸したり、譲^{ゆず}ったりしてはならない。
- (2) 一級小型船舶操縦士の免許は、18歳未満の者には与えられない。
- (3) 氏名が変わった場合は、操縦免許証の訂正を申請しなければならない。
- (4) 操縦免許証の有効期間は10年で、満了の際には国に返さなければならない。

.....答 (4)

⑦操縦免許証の有効期間を更新することなく満了してしまい、その効力が失われてしまった場合に、再交付を申請するにはどのような手続きをとらなければならないか。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 再教育講習を受講する。 (2) 失効再交付講習を受講する。
- (3) 小型旅客安全講習を受講する。 (4) 1か月以上の乗船履歴を証明する。

.....答 (2)

⑧操縦免許証の有効期間を更新するための要件として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 所定の身体適性基準を満たしていること。
- (2) 講習により更新する場合は、更新講習を修了していること。
- (3) 有効期間満了後3か月以内に、更新手続きが完了していること。
- (4) 乗船履歴により更新する場合は、所定の乗船履歴があること。

.....答 (3)

⑩操縦免許証が失効するのはどのような場合か。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 船を他人に売った。
- (2) 有効期間を更新しなかった。
- (3) 外国に移住した。
- (4) 結婚して名前が変わった。

.....答 (2)

⑪小型船舶操縦士の免許について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 一級小型船舶操縦士の免許は、すべての小型船舶に船長として乗船できる。
- (2) 水上オートバイを操縦するには、二級小型船舶操縦士以上の免許が必要である。
- (3) 二級小型船舶操縦士の免許は、平水区域及び海岸から5海里以内の水域を航行できる。
- (4) 一級小型船舶操縦士の免許は、満16歳以上であれば取得できる。

.....答 (3)

⑫操縦免許証の訂正を申請しなければならないのは、どのような場合か。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 操縦免許証を汚して読めなくなった場合
- (2) 本人の氏名が変わった場合
- (3) 所有する船の船名が変わった場合
- (4) 所有する船の保管場所が変わった場合

.....答 (2)

⑬小型船舶に船長として乗船するときには、操縦免許証をどのように扱わなければならないか。次のうちから選べ。

(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) マリーナや漁業協同組合に預ける。
- (2) 船内に備えておく。
- (3) 自宅に保管する。
- (4) 最寄りの海上保安部に預ける。

.....答 (2)

⑭操縦免許証の取扱いとして誤っているものは、次のうちどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) なくしたときや文字が読めないほど汚れたときは、再交付を申請することができる。
- (2) 小型船舶に船長として乗船するときには、操縦免許証の写しを持って行かなければならない。
- (3) 二級小型船舶操縦士が一級の資格を取得したときは、二級の操縦免許証を国に返さなければならない。
- (4) 住所を変えたときや記載内容に誤りを発見したときは、訂正申請をしなければならない。

.....答 (2)

⑮操縦免許証の有効期間は何年か。次のうちから選べ。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 3年
- (2) 4年
- (3) 5年
- (4) 6年

.....答 (3)

⑯二級小型船舶操縦士の資格で航行することができる区域として定められているものは、次のうちどれか。

(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 平水区域のみ
- (2) 湖や川と海岸から2海里以内の水域まで
- (3) 平水区域と海岸から5海里以内の水域まで
- (4) 海岸から20海里以内の水域まで

.....答 (3)

⑰小型船舶操縦士の免許について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 二人乗りの手こぎボートに乗るときには、免許は必要ない。
- (2) 大型船舶の免許(海技士免許)では、小型船舶の船長にはなれない。
- (3) 外国人が日本国内で船長として小型船舶に乗船するときには、免許は必要ない。
- (4) エンジン付きの長さ5メートルのヨットに船長として乗船するときには、免許が必要である。

.....答 (3)

⑱ 小型船舶操縦士免許の資格区分と航行区域を示した下表のうち、正しいものはどれか。(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

	資格区分	航行区域
(1)	一級小型船舶操縦士	海岸から50海里以内
(2)	二級小型船舶操縦士	平水区域及び海岸から5海里以内
(3)	二級小型船舶操縦士(第一号限定)	平水区域
(4)	特殊小型船舶操縦士	平水区域

.....答 (2)

⑲ 操縦免許証の有効期間を更新する際に必要とされる要件の一つとして適切なものは、次のうちどれか。
(船舶職員及び小型船舶操縦者法)

- (1) 講習機関が行う更新講習を修了していること。
- (2) 小型船舶の船長として、1日以上乗船履歴があること。
- (3) 操縦免許証の有効期間が満了してから6か月を経過していないこと。
- (4) 再教育講習を受講していること。

.....答 (1)

問 11 小型船舶の検査及び登録制度

① 定期検査に合格した小型船舶に対して交付される書類として誤っているものは、次のうちどれか。(船舶安全法)

- (1) 譲渡証明書 (2) 船舶検査証書 (3) 船舶検査手帳 (4) 船舶検査済票

.....答 (1)

② 登録を受けた小型船舶が船体に表示しなければならないものは、次のうちどれか。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 船舶の長さ (2) 船舶番号 (3) 総トン数 (4) 船舶の種類

.....答 (2)

③ 船舶検査を受ける必要のない船舶に該当するものは、次のうちどれか。(船舶安全法)

- (1) 旅客定員7人以上のろかい客船
- (2) 長さ3メートル未満でエンジンの出力が1.5キロワット未満の船舶
- (3) 他の船舶に引かれるエンジン付きの客船
- (4) 沿海区域を超えて航行するヨット

.....答 (2)

④ 最大搭載人員について述べた次の文のうち、誤っているものはどれか。(船舶安全法)

- (1) 船舶検査証書に記されている。
- (2) 船の大きさや性能によって決められている。
- (3) 船の見やすい場所に表示することが義務付けられている。
- (4) 年齢に関係なく、乗船している人は全員最大搭載人員に含まれる。

.....答 (4)

⑤ 初めて船舶を航行させるとき又は船舶検査証書の有効期間が満了したときに行う検査は、次のうちどれか。(船舶安全法)

- (1) 中間検査 (2) 定期検査 (3) 臨時検査 (4) 特別検査

.....答 (2)

⑥ 売買や相続により、小型船舶の所有者に変更があったときに行う登録は、次のうちどれか。

(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 新規登録 (2) 移転登録 (3) 変更登録 (4) 抹消登録

.....答 (2)

⑦ 一般の小型船舶(旅客船以外)の船舶検査証書の有効期間は、次のうちどれか。(船舶安全法)

- (1) 4年 (2) 5年 (3) 6年 (4) 7年

.....答 (3)

⑧登録を受けていない小型船舶を航行させるときに行う登録は、次のうちどれか。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 新規登録 (2) 移転登録 (3) 変更登録 (4) 抹消登録

.....答 (1)

⑨プレジャーボートの保管に関する条例について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 不法な係留に対して罰則を適用する条例がある。
(2) 放置艇を強制的に撤去することを定めた条例がある。
(3) 保管場所の届出を義務付けている条例がある。
(4) 橋脚やガードレールを係留設備として利用するよう定めた条例がある。

.....答 (4)

⑩両船側の船外から見やすい場所にはり付け

なければならない、右図に示すステッカーの
名称は、次のうちどれか。(船舶安全法)



- (1) 船舶検査証書 (2) 船舶検査手帳 (3) 船舶検査済票 (4) 次回検査時期指定票

.....答 (3)

⑪船舶検査証書に記載されていない事項は、次のうちどれか。(船舶安全法)

- (1) 船籍港 (2) 船長名 (3) 最大搭載人員 (4) 航行区域

.....答 (2)

⑫小型船舶の登録に関する事務は、次のうちどこが行っているか。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 都道府県庁 (2) 日本小型船舶検査機構
(3) 船用メーカー (4) 国土交通省の地方運輸局

.....答 (2)

⑬船舶検査証書に記載されている事項は、次のうちどれか。(船舶安全法)

- (1) 航行区域 (2) 船長名 (3) 機関の製造者 (4) 所有者の住所

.....答 (1)

⑭登録している小型船舶を沈没などで失ったときに行う登録は、次のうちどれか。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 新規登録 (2) 移転登録 (3) 変更登録 (4) 抹消登録

.....答 (4)

⑮国際航海に使用しない小型船舶の、1歳以上の最大搭載人員の算出方法について述べた次の文のうち、
正しいものはどれか。(船舶安全法)

- (1) 1歳以上6歳未満の子供は3人を2人として計算する。
(2) 1歳以上6歳未満の子供は2人を1人として計算する。
(3) 1歳以上12歳未満の子供は3人を2人として計算する。
(4) 1歳以上12歳未満の子供は2人を1人として計算する。

.....答 (4)

⑯小型船舶の登録の種類と、その説明の組合せとして誤っているものは、次のうちどれか。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 新規登録 …… 登録を受けていない小型船舶が最初に行う登録
(2) 移転登録 …… 登録されている所有者に変更があったときに行う登録
(3) 変更登録 …… 登録されている船名を変更するときに行う登録
(4) 抹消登録 …… 登録小型船舶が沈没などで船舶として存在しなくなったときに行う登録

.....答 (3)

⑰5人家族のAさん宅は、4人家族のBさん宅とCさん宅とでレンタルボートを借りることになった。マリーナに問い合わせたところ、定員(最大搭載人員)は10人だった。合計人数と乗船の可否について述べた次の文のうち、正しいものはどれか。なお、各家族の構成は下表のとおりである。(船舶安全法)

Aさん宅	父	母	長女12歳	次女10歳	長男3歳
Bさん宅	父	母	長男11歳	次男6歳	
Cさん宅	父	母	長女7歳	長男2歳	

- (1) 合計人数が13人なので、全員が乗船することはできない。
 (2) 6歳未満は算入しないが、合計11人で全員が乗船することはできない。
 (3) 12歳未満は2人で1人に換算するので、合計10人で全員乗船することができる。
 (4) 大人1人に対して小人1人は算入しないので、合計7人で全員乗船することができる。

.....答 (3)

⑱国際航海に従事しない小型船舶の、最大搭載人員の算出方法について述べた次の文の(ア)～(ウ)の中に当てはまる数値の正しい組合せは、下のうちどれか。

「1歳未満は算入せず、1歳以上(ア)歳未満のものは(イ)人をもって(ウ)人に換算する。」

(船舶安全法)

- (1) (ア) : 12 (イ) : 2 (ウ) : 1 (2) (ア) : 15 (イ) : 3 (ウ) : 2
 (3) (ア) : 12 (イ) : 3 (ウ) : 2 (4) (ア) : 15 (イ) : 2 (ウ) : 1

.....答 (1)

⑲小型船舶の長さや推進機関の種類などに変更があったときに行う登録は、次のうちどれか。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 新規登録 (2) 移転登録 (3) 変更登録 (4) 抹消登録

.....答 (3)

⑳移転登録はどのようなときに行う登録か。次のうちから選べ。(小型船舶の登録等に関する法律)

- (1) 小型船舶の船籍港を移転したとき (2) 小型船舶の所有者に変更があったとき
 (3) 小型船舶の所有者の住所を移転したとき (4) 小型船舶の船名を変更したとき

.....答 (2)

㉑船体の改造又は航行区域など船舶検査証書に記載された航行上の条件を変更するときに受ける検査は、次のうちどれか。

(船舶安全法)

- (1) 定期検査 (2) 臨時検査 (3) 中間検査 (4) 臨時航行検査

.....答 (2)

問 12 環境への配慮

①環境への配慮として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 騒音や大気汚染につながるのを、エンジンの悪質な改造を行わないようにする。
 (2) 出航前の点検時は、できるだけエンジンの回転を上げて調子を確認するようにする。
 (3) 岸から十分に離れるまで、必要以上にスピードを上げて航行しないようにする。
 (4) 生態系に与える影響を小さくするため、環境対応型のエンジンを使うようにする。

.....答 (2)

②環境への配慮について述べた次の文のうち、適当なものはどれか。

- (1) 海洋生物の生活環境を良好にするので、まき餌は大量に行う。
 (2) 水鳥を死傷させることがあるので、切れた釣り糸は回収して持ち帰る。
 (3) 航行中であれば特に支障はないので、ビニール袋は水中に捨てる。
 (4) プロペラにからむことはないので、ロープの切れはしは水中に捨てる。

.....答 (2)

③海に捨てられたゴミ等による影響について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 捨てられた釣り糸がプロペラにからまり、推進器の故障につながることもある。
- (2) 捨てられた釣り針や釣り糸が水鳥の足や体からみ付き、死傷させることがある。
- (3) 大量のまき餌は魚介類の栄養源になり、養殖漁業により影響を与えることがある。
- (4) 捨てられたゴミによって、海網や漁具が損害を受けることがある。

.....答 (3)

④環境への配慮について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 航行中にたまったビルジは、油水分離器で油分を取り除いてから排出する。
- (2) 係留中に生じたゴミは、出航後、広い水域に出てから捨てる。
- (3) 切れたロープは、プロペラにからみ他船を航行不能にすることがあるので捨てないようにする。
- (4) 釣り針や釣り糸は、ダイバーや水生動物を傷付けることがあるので捨てないようにする。

.....答 (2)

⑤小型船舶の係留や処分について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 大きな河川であれば、自由に杭を打ちつけて係留場所にすることができる。
- (2) 無許可で係留する場合は、他の船舶の航行の邪魔にならないよう、きちんと係留しておく。
- (3) まわりの景観に影響を与えないと判断すれば、不要になった船舶はどこにでも放置できる。
- (4) 船舶の処分方法が分からない場合は、海上保安部や自治体等に問い合わせる。

.....答 (4)

⑥環境への配慮について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 岸から十分に離れるまで、エンジン音を上げないようにする。
- (2) 早朝や夜間には、不必要なエンジンの始動は行わないようにする。
- (3) 環境への影響が小さければ、消音器はなるべく外すようにする。
- (4) 排出ガス規制に適合した、環境対応型のエンジンを使うようにする。

.....答 (3)

⑦環境への配慮について述べた次の文のうち、適当なものはどれか。

- (1) 騒音対策のため、排出ガス規制が強化される以前のエンジンを使うようにする。
- (2) 陸上でエンジンを始動したときは、なるべく短時間で大きく空吹かしを行うようにする。
- (3) 岸から十分に離れるまで、エンジン音を上げないような操縦を心掛けるようにする。
- (4) 人家に近い水域での騒音をともなうような操縦は、日中に行うようにする。

.....答 (3)

⑧環境保全に関するルールについて述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律により、船舶からの油の排出が規制されている。
 - (B) 環境保全を目的とした条例により、航行できる水域や時間帯が制限されている場合がある。
- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (3)

⑨環境への配慮として適切でないものは、次のうちどれか。

- (1) 漁業に大きな被害を及ぼしますので、廃油や油を含んだビルジを捨ててはならない。
- (2) 海岸や砂浜を汚すので、ゴミや汚物を捨ててはならない。
- (3) 生物の生活環境を壊すので、弁当や釣り餌の残りを捨ててはならない。
- (4) 船舶の故障や海難の原因となるので、海底に沈むもの以外は捨ててはならない。

.....答 (4)

⑩油や廃棄物を海洋に排出することが特別に許されるのはどのような場合か。次のうちから選べ。

- (1) 油水分離器を通さないビルジの排出 (海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律)
- (2) 軽油やガソリンのような粘度の低い油の排出
- (3) 船舶の安全を確保するための廃棄物の排出
- (4) 海底に沈んでしまうような廃棄物の排出

.....答 (3)

⑪不法係留や放置船による影響について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 船舶所有者と付近の住民との間にトラブルが生じることがある。
- (2) 船体の破損や沈没により、水域の景観や水質を汚すことがある。
- (3) 船舶交通がなめらかになり、工事作業がはかどることがある。
- (4) 高潮や洪水のときに船舶が流されて、被害が大きくなる可能性がある。

.....答 (3)

⑫環境への配慮として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) まき餌は海洋生物の生活環境を良好にするので、大量に行うようにする。
- (2) 切れた釣り糸は水鳥を傷付けることがあるので、回収して持ち帰るようにする。
- (3) ビニール袋は航行の支障になることはないので、水中に捨てるようにする。
- (4) ロープの切れはしはプロペラにからむことはないので、水中に捨てるようにする。

.....答 (2)

⑬不法係留や放置船による影響について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 高潮や洪水時に流水を止めるので、被害を最小限に抑える効果がある。
- (2) 無秩序に係留された船舶は、他の船舶の通航や工事作業の妨げとなる。
- (3) 所有者がわからないまま放置された船舶は、やがて沈没して大きな障害となる。
- (4) 生活環境や景観が悪くなって、住民や漁業者等とトラブルになる。

.....答 (1)

⑭海に捨てられたゴミなどによる影響について述べた次の文のうち、適切でないものはどれか。

- (1) 釣り糸の切れはしがプロペラシャフトにからまり、推進器の故障につながる場合がある。
- (2) ビニール袋が冷却水の取入口をふさぎ、エンジンがオーバーヒートを起こす場合がある。
- (3) 海底に沈んだ大量のまき餌は、海洋生物の生活環境にいい影響を与える場合がある。
- (4) 不法に捨てられたゴミや油により、漁網や漁具が被害を受ける場合がある。

.....答 (3)

⑮小型船舶の係留や処分について述べた次の文のうち、適切なものはどれか。

- (1) 大きな河川であれば、自由に杭を打ちつけて係留場所にすることができる。
- (2) 無許可で係留する場合は、他の船舶の航行の邪魔にならないように係留しておく。
- (3) まわりの景観に影響を与えなければ、不要になった船舶はどこにでも放置できる。
- (4) 船舶の処分方法が分からない場合は、自治体やマリーナなどに問い合わせる。

.....答 (4)

⑯環境への配慮として適切なものは、次のうちどれか。

- (1) 出航前の点検時は、できるだけエンジンの回転数を上げて調子を確認する。
- (2) 使用する船には、できるだけ環境に与える影響が少ないエンジンを搭載する。
- (3) 出航するときは、できるだけ速力を上げて、早く岸から離れる。
- (4) 所有する船を処分するときは、沖合の安全な場所に沈める。

.....答 (2)

⑰大量の原油や重油などの油が広範囲に渡って海面に広がっていることを発見し、「海洋汚染等及び海上災害の防止に関する法律」に基づいて通報する場合、通報先として最も適切なものは、次のうちどこか。

- (1) 消防本部・消防署 (2) 地方海難審判所
(3) 都道府県警警察署 (4) 海上保安部・保安署

.....答 (4)

⑱日本国内で販売するマリンガソリンエンジンを対象として、日本の業界団体が行っている排出ガス規制について述べた次の(A)と(B)の正誤を判断し、下のうちから当てはまるものを選び。

- (A) 規制の対象となっているのは、水上オートバイのエンジンだけである。
(B) 規制により、4ストロークガソリンエンジンや環境対応型の直噴式2ストロークガソリンエンジンに順次切り替わっている。

- (1) (A)だけ正しい (2) (B)だけ正しい (3) ともに正しい (4) ともに誤っている

.....答 (2)